

講演録

「国際港湾都市・神戸の発展策」

国土交通省港湾局長

須野原 豊

(於. 神戸商工会議所神商ホール)

平成 20 年 10 月 3 日 (金)

【須野原】 ただ今ご紹介いただきました国土交通省港湾局長の須野原でございます。本日は「国際観光・港湾都市 神戸の魅力を探る」というフォーラムにお招きいただきまして、ありがとうございました。私自身も神戸に勤務していたことがございましたし、また先ほどもありました大震災のときには、港湾局におりまして、復旧を担当させていただきました。そういう意味で神戸に対しましては、大変愛着を感じている者の1人でございます。私はトップバッターということで、特に「国際港湾都市・神戸の発展策」ということですが、港湾局の進めております施策を中心に話をさせていただけたらと思っております。

ご承知の通り神戸は、我が国を代表する外国貿易の港湾でございますし、日本の開港5港の1つでございます。古くから海外文化の影響を強く受けてきまして、現在は特に東アジアの玄関口として、世界の各港と結ばれており、具体的には130余りの国や地域の500余りの港との間を結ぶ定期船が寄港しております。まさに我が国を代表する外国貿易港でございますし、それにつきましては、皆さまもよくご承知の通りだと思います（スライド1）。

そういう中で、我が国の港湾政策を最初に少しお話しさせていただけたらと思っております。港湾政策につきましては、現在大きく4つの観点から進めさせていただいております。1つは国際競争力の強化という観点、2つ目は地域の活性化という観点、3つ目は地域、港の安全・安心の確保という観点、4つ目は、私たちの今後の長期的な課題であります地球環境問題への対応という観点でございます（スライド2）。

私たちが進めております港湾政策を若干ご紹介させていただいた後に、神戸港、あるいは神戸の港づくり、町づくりについてお話させていただこうと思っております。

まず国際競争力の関係につきましては、神戸港は我が国のスーパー中枢港湾の1つとして位置づけさせていただいております。

国際的にも十分対応できるターミナルを整備させていただいております。併せて港を十分に使うという観点から、港湾の24時間化に向けたモデル事業などいろいろな施策を実施させていただいております。いずれにしても荷主をいかに確保していくかという観点で、ハード面、ソフト面、それぞれの施策を進めております。特にこの10月からはようやくソフト面におきまして、ワンストップサービスということで、輸出入の手続きにつきまして、1つの窓口ですべての手続きができるようになりました。そういうことでいろいろな意味でハード、ソフト面の強化に向けた取り組みをようやくスタートできる状況になってきたと思っております。

次に地域の活性化という観点ですが、これはいろいろな港におきまして、港の背後への企業立地を促進することを進めています。神戸もそうですが、ほかの全国の港でも進めているところでございます。もう1つは、先ほどからの今回のテーマでございます国際競争力の高い魅力ある観光地の形成という観点で、港も一定の役割を果たしていこうと考えております。ここ神戸もそうですし、日本の場合、四面を海に囲まれております。やはり海外からの出入り、あるいは国内もそうですけれど、航空と併せて港を使った人の出入りというのが大きな役割を果たすだろうと考えています。そういう中で、地域の魅力、特に港の魅力を活かし、背後の町づくりとも連携しながら観光地の形成というものを進めていけたらと思っております。もう1つは、地域の公共交通ということで、全体的な活性化に結びつけられたらと思っております。

3点目の安全・安心では、ここ神戸でも大規模な震災がありました。大規模地震に強い町づくり、港づくりを進めようというものでございます。併せて海洋政策ということで、海洋基本法が出来ていまして、基本計画に基づいて、我が国の海洋資源の開発、あるいはその利用という観点から、港におきましても必要な施策

を進めていこうというものでございます。

最後の環境問題につきましては、特に CO2 を削減するための海運の利用というものが大きな課題となっております。それに向けたシームレスな物流を実現するための政策、あるいは港そのものにおきましても、CO2 を削減するための様々な施策につきまして、これから進めていこうと考えているところでございます。

以上大きく 4 つの港湾政策を進めております。そういう中で我が国の観光振興におきます取り組みということで、若干最近の動向に触れさせていただけたらと思っております。

先ほどからご挨拶等でお出ておりますが、一昨日 10 月 1 日に観光庁が設立されました。観光立国を総合的かつ計画的に進めるために、国土交通省の中に出来たわけであります。観光圏の整備によりまして、観光旅客の来訪及び滞在を促進していくための法律も制定されておりました、今年 7 月 23 日に施行されています。いずれにしましても、地域の関係者と一緒になって基本計画を作成したり、あるいは必要な施設の整備を進めるということを今後の大きな柱として進めていくこととしております。

それと併せて観光立国推進基本計画に基づきまして、国内の旅客あるいは外国人の訪日旅客を拡大しようということを考えておりました、観光庁が中心となって全体の施策を進めております(スライド 3)。

そういう中で、現在の課題といたしますか、大きな目標でございますが、ご承知の通り、観光を進める中で特に訪日外国人の数を見ますと、我が国は、2007 年でございますけれども全世界の 28 番目でございます。一番のフランスの 8,200 万人と比べましても、その 10 分の 1 ということでございますし、アジアで見ましても 6 位という状況でございます。アジアの中で一番が中国でございます、約 5,500 万人ということですので、それから見ても日本の場合には残念ながら現在まではまだまだ外国人の訪日に対しては

十分できていないということでございます。

当面 2010 年までにこれを 1 千万人にしようと、また将来的には 2 千万人ということで、いろいろな施策を進めていけたらと思っております。併せて日本人の海外旅行者につきましても、当面 2010 年までに 2 千万人ということで、いずれにしましても出と入りを増やすことによって、我が国の産業の中で観光というものを大きな柱として位置づけようと思っております。国内につきましても、現在の 2006 年の 1 人当たりの宿泊日数が 2.7 日ということでございますので、それを 2010 年までに 4 泊にとということで、いずれにしても長期滞在型の施設づくりなど、いろいろな企画づくりを進めるということが大事だと思っております。これにより国内旅行につきましても、2005 年の時点で GDP24 兆円から約 30 兆円に、同時に国際会議等につきましても、開催件数を 2011 年までに 5 割増にしようということで、大きな政策目標に向けてこれからいろいろな施策を進めていけたらと考えているところでございます（スライド 4）。

そういう中で、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成ということが大きな課題だと思っております。私も個人的にいろいろな海外の観光地を見て回ってきていますが、やはり広域的な連携というのが、大きな課題だと思っております。いろいろな地域の観光を見ますと、従来はどうしても狭い範囲の観光施策、県の各観光協会や市町村で、どうしても自分たちのことだけを考えていたということが日本における大きな課題であったのではないかと思います。そういう意味で、例えば観光商品の開発におきましても、より広域的な中でいろいろな機能を持つようにしていく、従来の点的な整備から面的な広がりを持つようにしていくということが我々にとって大事な課題ではないかと思っております。そういう意味で町づくりと様々な観光資源を組み合わせることにより、国

際競争力の高い魅力ある観光地を作れたらと思っています。

港におきましては水辺空間の修景でありますとか、ターミナルの整備ということを進めていけたらと思っています。先ほど矢田市長からもありましたように、この神戸におきましては、ウォーターフロントの整備でありますとか、港の開発、さらにクルーズ振興とありましたが、そういう様々な切り口に対応できる観光地、それが重層的に組み合わされることによって、より質の高い観光地づくりができるのではないかと考えているところでございます（スライド5）。

そういう中で、私ども港湾における観光政策ですが、若干おさらいになりますし、後ほど幡野さんからもあると思いますが、クルーズという観点で少し現状を見てみますと、全世界で約 1,600 万人、現在クルーズ人口がございまして、日本のクルーズ人口につきましては、その約 1% でございます。日本におきましては、約 18 万人ということございまして僅か 1%。日本に寄港するクルーズ船につきましては、右にございますように、現在 800 隻前後毎年寄港してございます。そのうち外国船となりますと、約 4 割の 300 隻程度でございます。全体としてはここ数年横ばいでございまして、その中におきまして外国船が、微増傾向にあるという状況でございます。

特に最近はこの神戸もそうですし、横浜もそうですが、拠点となる港には寄港しますけれど、全体としては、まだまだこれからというのが日本における状況ではないかと考えております。もちろん北米のカリブ海における 1,150 万人というのは除きますが、ヨーロッパの地中海におきましては、最近クルーズのためのいろいろな施策が進んでいますので、我が国におきましては、これを踏まえた対応をしていくことが大事だと考えております。ということでこれから大いに伸びる余地のある分野だと考えているところでございます（スライド6）。

より魅力ある港町づくりを進めていこうというものでございます。岸壁等の大規模な施設は通常の港の整備で行いますが、背後のターミナルとか緑地、さらに港によってはプレジャーボート収容施設やヨットハーバー等も含めて、そういう面的な整備につきまして、地域の皆さまと一緒に進めていくものでございます。いろいろな地域からのご要望があります。もちろん港によって持っている資源も違いますから、各港で進めているものにも違いがありますが、それぞれが持っている歴史的なもの、あるいは背後圏とのつながりを活かしつつ、それぞれの地域において知恵と工夫を凝らしながら、必要なものを整備していくというものでございます（スライド8）。

具体的に現在ここにごございますような港で進めております。北は北海道から、南は沖縄までそれぞれの港が持っている歴史的な資源、あるいは景観といったものを活用しています。ここ瀬戸内海におきましても、各港でそれぞれ歴史的なものをより活かしていこう、あるいは回復していこうという取り組みを進めているところでございます。ここ神戸におきましても「須磨地区、みなとのにぎわい創出事業」というものを進めていただいております（スライド9）。

それとともに、神戸もそうですが、各港において「運河」というものが改めて見直されてきています。「運河」の魅力の再発見をしようということでございます。地域と港湾管理者等が主体となりまして「運河」の魅力を再発見するため、地域の個性を活かした水辺の賑わい空間づくり、場合によっては水上ネットワークの構築を進め、さらには防災という観点からも「運河」というものを見直そうということでございます。そのための計画づくりから、プロジェクトの発掘、さらに事業推進を支援し、最終的には地域の皆さまと一緒に、運河そのものを従来のに復元することもあります（スライド10）。

全国ここにありますが、仙台でありましたら、貞山運河と言って、本当に歴史的な運河の魅力を再発見していこうということでございますし、ご当地神戸におきましては、兵庫運河というものを活用した地域活性化のためのプロジェクトが進められています。また、お隣の尼崎におきましてもプロジェクトが進められています。さらに大阪港におけるチャンネルもそうですし、主に歴史的なものを改めて今の観点で見直していこうという形で進めているところでございます（スライド 11）。

それとこれは神戸のこれからのクルーズにも大きく影響すると思っておりますが、全国で「みなとオアシス」ということで、みなとの情報発信をしていこうということで進めているものでございます。後ほどご説明しますが、例えば神戸をベースにしまして瀬戸内海をクルーズする中で、いろいろな港に寄る必要があります。これは大型船で寄る場合もありますが、例えば小型のクルーズ船で2泊3日や3泊4日で瀬戸内海を回ろうとした場合に、その拠点となる港の情報発信をしようということで、みなとオアシスの展開ということを進めております。特に瀬戸内海あるいは四国といった関西圏や西日本において、登録が進んでいるところでございます。現在、全国で40の港が登録されておりますが、それぞれが持っているいろいろな歴史的なもの、あるいは資源というものを情報化することによって、例えば小型のクルーズ船で寄ったときにどんなものがあるか、上陸してどんな食事ができるか、どんな情報が得られるかといったものを連携した形で伝える、それによって重層的なクルージングネットワークができるだろうと思っております。大型船による寄港も大事ですが、併せて小型船によることでいろいろなニーズに合った海を活かした観光あるいは海を活かした人のつながり、交流ができるというものでございます。そのベースとして、港を位置づけております。

このような中で、私たちとしましても地域の皆さまと一緒にあって情報発信あるいは地図への掲載、標識の設置といったことで支援していきたいと思っています。さらに整備局のホームページにおきましても、そういう情報を提供することによって、より利用者の皆様に分かりやすい情報発信等を進めたい、それと併せて地域の交流というものを今まで以上に進めていけたらと思っていますところでございます（スライド 12）。

こういういろいろな施策と合わせて、今進めていることがございます。地域の皆さまが行政だけではなく、いわゆる地域の企業でありますとか、市民団体がいろいろな町づくりに取り組んでいますが、その方々を支援するためのファンドの制度を作っております。具体的には国が民間都市開発推進機構というものを通しまして、町づくりを進めるために地域の皆さまが設立したファンドに少しお手伝いしようというものでございます。具体的に支援対象としておりますのは、特に NPO の皆さまが進める町づくりの事業となっております、基本的にハードが中心になりますが、伝統文化の継承のための施設の保全でありますとか、魅力アップのためのシンボル施設の整備でありますとか、さらには照明といったものとなっております。それほど大きな事業ができるわけではございませんが、地元の自治体でありますとか、地域の方々、地域の企業というものが資金を出していただいて、ファンドを作られたものに対して少しご支援しようというものとなっております。そういうことによりまして、例えば岸壁のような大きな施設は国や港湾管理者が整備しますし、先ほど申しあげましたような「みなと振興交付金」による少しこぶりの施設整備につきましても、地域の皆さまに進めていただきます。それと併せてもう少し具体的な活動に係わる施設につきましても、地域の皆さまに取り組んでいただくというように重層的にご支援、ご協力させていただくということで進めております。そういうことによりまして、

港町あるいは町の魅力アップをしていこうというものでございます。これにつきましても、ようやく取り組みが始まったところでございますので、いろいろなアイデアを出していただくことによって、それぞれの港町の魅力アップにつながり、ひいては観光振興につながって欲しいと考えているところでございます（スライド 13）。

それと合わせて「みなとまちづくりマイスター」といっておりますが、町づくりを進めていくためには、やはり人というものが最後に関わってくるわけでございます。賑わいの創出でありますとか地域の活性化ということで、既にいろいろな地域で取り組みがされておりますが、その中心となって活躍されている皆さまを社団法人ウォーターフロント開発協会より、「マイスター」ということで認定させていただき、これらの方々のノウハウをいろいろなところで使っていただこうというものでございます。今年第一回目の「マイスター」の指定をさせていただきました。施設を整備する中で、それぞれの地域のいろいろな悩みもあります。悩みも含めて共有化し、解決していくことが大事だと思っておりますので、施設づくり、町づくりと併せて人づくりというものもぜひ全国的に進められたらと考えておりまして、そのためのご支援をさせていただいているところでございます（スライド 14）。

このようなことで全体的な町づくりのための施策として進めさせていただきます。

そういう中でご当地神戸につきまして、どのようなことを私たちが今皆さまと一緒に進めさせていただいているかでございます。ご承知の通り先ほど市長さんからございましたが、神戸市さんのほうで中心に進めていただいておりますウォーターフロントの賑わい拠点づくりでございます。神戸の場合、港の中あるいは周辺も含めていろいろとあります。ここにございますように、歴史的なもの、それを活かしたもの、あるいは新しいもの、

さらには将来の教訓になるもの、それぞれいろいろなものがあります。観光という観点からは、いわゆる従来型の観光もありますし、産業観光的なものもごございます。いろいろな賑わい拠点をどのように組み合わせていくかということが課題ではないかと思っていますところでございます（スライド 15）。

神戸は、先ほどから申し上げておりますようにクルーズの拠点となっております。東の横浜に対して、西の神戸です。神戸市におきましても、いろいろなクルーズ振興の取り組みが進められております。客船が入ったときの歓迎セレモニーもそうですし、市民と一体となったクルーズ船の誘致でありますとか、客船を活かした地域活性化といったことをごございます。これにつきましても私たちといたしましては、市や地域の皆さまと一緒に進めていけたらと思っているところでございます（スライド 16）。

神戸は歴史的な港ということでございますので、食の文化や景観など多様な資源を有しています。先ほどから申し上げております「みなと振興交付金」も含めてですが、多様な資源をいかに組み合わせるのかということにつきましてもご支援をさせていただけたらと思っているところでございます（スライド 17）。

神戸におきましては、従来からある観光と合わせて産業観光ということで、例えば造船所でありますとか、神戸空港、あるいは港の背後に立地している企業が観光資源となっております。例えば港内のクルーズにつきましても従来型の観光地と違った魅力を出していけるのではないかと思っているところでございます。そういうものをうまく組み合わせることによって、港だけでも観光資源として魅力的なスポットになると思っています（スライド 18）。

前回の大地震もメモリアルパークとして地域で残していただいておりますが、これは世界に向けて発信できる、ある意味では私たちの教訓だと思っています。現在メリケン波止場の一部を大地震で被災した状況で保存していますが、神戸の被災、復興について、

1つの教訓として、あるいは子どもたちにとっての教育の場として、さらには海外に発信すべきものとして、重層的な拠点となっていると思っています。大規模地震や津波というものもありますので、今まさに安全・安心が重要な課題となっているところです（スライド 19）。

観光の振興におきましては、背後圏との連携というものが大事だと思います。これは最初に申し上げましたけれど、従来観光というと何々県観光協会の私たちの地域の観光というものはあるのですが、なかなか広域的な発想はなかったわけでございます。それについて神戸では、関西圏の京都、奈良もそうですし、あるいは前面の海もそうですが、やはり有名な観光地との連携というものに最も大きな期待ができるのではないかと考えています。それを海外に対しても十分に発信していく、あるいは港につきましても十分に発信していくというための施策を私たちは進めているところでございます（スライド 20）。

例えば先日行われました「せとうち・感動体験クルーズ」もそうですが、瀬戸内海という海の持っている資源をいかに活かすかというのも大きなテーマだと思っています。前回の感動体験は非常に成功裡に進められておりますが、今後従来型のクルーズと合わせて、瀬戸内海にあります各地区で、いろいろな観光資源を開発してもらい、そのためにネットワークを組む、あるいは協力していくという施策を、ぜひこの地域だけではなく、私たちも含めて進めていけたらと思っています。そうすることによっていろいろな地域全体の魅力度のアップ、あるいは国際観光における魅力度のアップにつなげていけるのではと思っています。

なかなか従来の進め方でいきますと、それぞれの地域だけ、あるいは神戸または関西圏だけとなるわけでございます。特に神戸におきましてはこの港というものが非常に重要なベースとなっておりますので、その港の持っている資源を最大限活かすために瀬

戸内海というものをいかに活用していくか、瀬戸内海の拠点となる各港をいかに魅力アップしていくか、そのために先ほど申し上げました例えば「みなとオアシス」をいかに組み合わせしていくかといったことを考えることで、瀬戸内海地域との連携が組めるのではないかと考えていますし、そのための施策につきまして、私達も一緒になって進めていけると考えています。

そういう観点からの取り組みというのを、ぜひここにいらっしゃる皆さまと進めていきたいと考えていますし、そういう取り組みが例えば神戸をベースとした1つのビジネスモデルになると思っています。そういう取り組みを既に進められようとしている企業の方もおられるようがございますから、これを1つのビジネスモデルにすることによって、ほかの地域でも別の観点での取り組みができるのではないかと考えております（スライド 21）。

そういう中で、現在進められている神戸港の取り組みについて、私の方から少しご紹介させていただきます。まずは先ほどもありましたポートアイランド地区につきましては、従来の港湾の物流機能から大きく機能転換をしています。大学の誘致と併せて港の公園の整備、特に冒頭のしおさい公園といったような人の集まる場としての機能転換、土地利用の転換が進められています。さらに現在、港の持っている魅力を最大限に活かすための緑地整備につきまして、22年度の完成に向けて進められておりますので、これによってさらに大きな転換が進むのではないかと考えています（スライド 22）。

西の須磨地区におきましてもみなと振興計画ということで、水辺の賑わい空間づくりというものが進められております。地域の学習施設の整備と併せて1つの港の拠点となるのではないかと考えているところでございます（スライド 23）。

兵庫運河につきましては、歴史的に非常に大きな集積がございます。運河を回遊するためのプロムナードの整備でありますとか、

小型船による運河内の周遊といったものですが、こういうことも神戸港における拠点づくりにおいて、重要な役割を果たしていると思います（スライド 24）。

町づくりへの市民の参加についてですが、従来から神戸におきましてはいろいろと市民が参加した町づくりが進められております。それにつきましても従来以上に施設づくりと合わせて、人づくりをこれからも進める必要があるとされているところでございまして、先ほども申し上げました「みなとまちづくりマイスター」も併せて、いろいろなノウハウを活かするとよいのではないかと考えています（スライド 25）。

神戸の観光振興・発展に向けた町づくりの視点でございしますが、大きく分けて3つの視点から進める必要があるとっております。1つは多様な観光資源の活用ということです。歴史、文化、景観、さらには神戸ということで防災、あるいは産業ということで、多様な資源を重層的に組み合わせていろいろな企画を進めていくということが大きな課題だと思っております。これまでもそのような視点で町づくりを進めてこられた神戸の地におきまして、今後ともさらに進めていただければと思っております。

それともう1つは広域的な連携として、従来ややもしますと、京都、奈良といった内陸との連携が主体であったかと思っておりますが、先ほども申し上げましたように港町神戸でございまして、瀬戸内海沿岸地域との連携というものを今まで以上に進めることがトータルとしての面的な広がり、あるいはいろいろな企画を進めることができるということから大事であると思っております。

最後に市民が主体となった港町の活性化ということで、人づくりと併せた町づくりを進めていくことが大事であるということでございます。

以上のような大きく3つの視点から進めていくことによって、港湾都市神戸の魅力をますます向上させることができるのではない

いかと思っています（スライド 26）。

それにつきまして私たち国土交通省におきましては、皆さまと一緒に進めていくことをお誓い申し上げまして、私の本日のプレゼンとさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

平成20年10月3日
第4回観光・海事立国フォーラム in 神戸 2008

みなとの元気は
日本の元気

国際港湾都市・神戸の発展策



国土交通省
港湾局長 須野原 豊

写真:神戸市HP

我が国を代表する外国貿易港湾 神戸港

神戸港は開港5港のひとつであり、古くから海外文化の影響を強く受けてきた。現在では、東アジアの玄関口として、世界の約130あまりの国・地域、500あまりの港を結ぶ数多くの定期船が寄港しており、我が国を代表する外国貿易港湾に発展している。





写真:神戸市HP

1. はじめに (スライド1)

港湾政策の4本柱

- ① **国際競争力の強化**
スーパー中核港湾プロジェクトの充実・深化
- ② **地域の活性化**
港湾を核とした地域の活性化
国際競争力の高い魅力ある観光地の形成
地域公共交通活性化のための取り組み
- ③ **安全・安心の確保**
大規模地震等への対応力の強化
海洋政策の推進
- ④ **地球環境問題への対応**
港湾行政のグリーン化の推進

4

2. 我が国の港湾政策 (スライド2)

観光振興への政府の取り組み

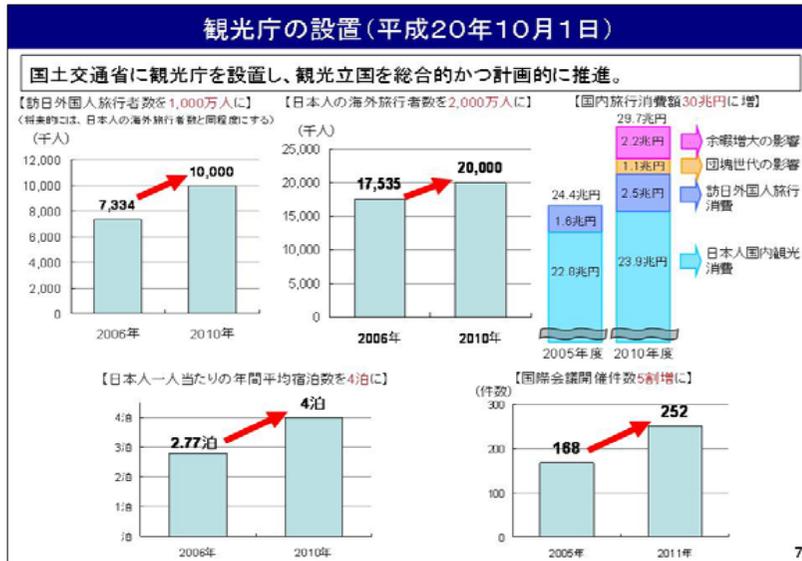
- ① **観光庁の設立(平成20年10月1日)**
観光立国を総合的かつ計画的に推進していくため、国土交通省に観光庁を設置。
- ② **観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律の制定(平成20年7月23日施行)**
観光地が広域的に連携した「観光圏」の整備を行うことで、国内外の観光客が2泊3日以上滞在できるエリアの形成を目指し、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを推進することで、地域の幅広い産業の活性化や、交流人口の拡大による地域の発展を図るもの。

主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主務大臣による基本方針の策定 ・地域の関係者の協議を踏まえた市町村又は都道府県による観光圏整備計画の作成 ・観光圏整備事業の実施に関すること 等
------	---
- ③ **観光立国推進基本計画の策定(平成19年6月29日閣議決定)**
観光立国推進基本法第10条の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「観光立国推進基本計画」を策定。

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の国内旅行及び外国人の訪日旅行を拡大 ・国民の海外旅行を発展 等
------	--

6

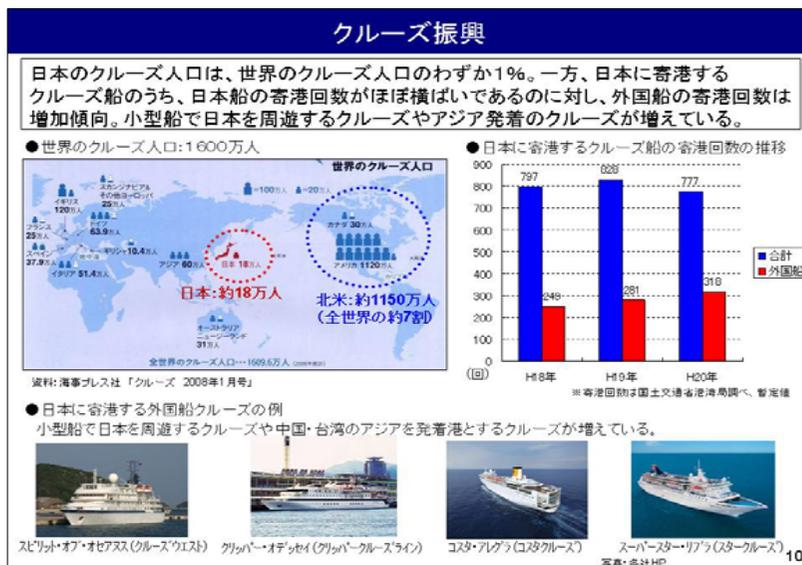
3. 我が国の観光振興に関する取り組み (スライド3)



3. 我が国の観光振興に関する取り組み (スライド4)



3. 我が国の観光振興に関する取り組み (スライド5)



4. 港湾の観光施設 (スライド6)

神戸港に寄港するクルーズ船

神戸港には、外国船・日本船とも多くのクルーズ船が寄港。飛鳥IIやばしふいっくびいなす等の日本船の他、神戸港発着で日本を周遊するスピリット・オブ・オセアナスや太平洋クルーズの途中で立ち寄るアムステルダム等の外国船も多く寄港。

平成19年 クルーズ船寄港回数

外国船	寄港回数	合計	日本船	寄港回数
1 (1)	長崎港 37	1 (1)	横浜港 117	
2 (9)	那覇港 26	2 (2)	神戸港 114	
3 (2)	石垣港 25	3 (3)	長崎港 44	
4 (10)	鹿児島港 20	4 (4)	広島港 31	
5 (2)	神戸港 19	5 (18)	那覇港 30	
6 (2)	広島港 18	6 (5)	名古屋港 30	
7 (6)	金沢港 16	7 (6)	東京港 29	
8 (4)	秋田港 16	8 (45)	石垣港 28	
9 (7)	横浜港 15	9 (9)	鹿児島港 26	
10 (5)	宇野港 14	10 (13)	金沢港 26	

飛鳥II

資料: 郵船クルーズHPより作成

平成20年 クルーズ船寄港回数

外国船	寄港回数	合計	日本船	寄港回数
1 (2)	那覇港 52	1 (1)	横浜港 117	
2 (1)	長崎港 34	2 (2)	神戸港 111	
3 (3)	石垣港 33	3 (5)	那覇港 56	
4 (5)	神戸港 32	4 (9)	鹿児島港 43	
5 (4)	鹿児島港 31	5 (3)	長崎港 40	
6 -	博多港 22	6 (8)	石垣港 36	
7 (6)	広島港 14	7 (4)	広島港 33	
8 (11)	横浜港 12	8 (14)	神奈川港 32	
9 -	平良港 11	9 (6)	名古屋港 26	
10 (10)	宇野港 10	10 (12)	釜ヶ浦港 23	

スピリット・オブ・オセアナス

資料: Cruise West HP

4. 港湾の観光施設 (スライド7)

みなとオアシス

人々の賑わいや交流を促進するみなとの施設のうち、一定の要件を満たす施設を地方整備局長等が「みなとオアシス」として認定・登録し、国がその広報活動を支援することにより、みなとの施設の利用を促進。

（港） みなとオアシス登録数の推移

年度	登録数
H15	2
H16	5
H17	15
H18	27
H19	35
H20	40

シンボルマーク

■「みなとオアシス」の主な支援施策

- みなとオアシスのシンボルマークの使用
- 国土交通省・地方整備局等のホームページによる広報
- 道路地図への掲載や道路標識の設置の支援等

16

4. 港湾の観光施設（スライド12）

まちづくりファンド

NPO、住民、地元企業等の主体的参画による地域の特色あるみなとづくりの推進を図るため、NPOなどの市民団体等が行うみなとづくり事業（ハード事業が対象）に対して「まちづくりファンド」において支援。

支援対象

NPOなどの市民団体等が実施するみなとづくり事業（ハード事業が対象）

伝統文化の継承・歴史的回廊の保全（既存倉庫の改修）
 港の魅力アップ（シンボル施設の整備）
 港の魅力アップ（夜景施設の整備） など

支援スキーム

17

4. 港湾の観光施設（スライド13）

みなとまちづくりマスター

今年度より、「みなとまちづくり」の取り組みを通じて、“賑わいの創出”や“地域の活性化”などの成果が得られた事例において、中心的に活動された方を対象に、「みなとまちづくりマスター」として認定・表彰を行う制度を創設。

（主催：(社)ウォーターフロント開発協会、後援：国土交通省）

目的

- 認定、表彰等を通じて、みなとまちづくりの成功事例を広く周知。
- 認定者の各地への招聘等により、地域間の交流や情報交換をはかる。
- 後進の育成にも積極的に関わって頂く。

「みなとまちづくり」の一層の推進

「みなとまちづくりマスター」認定のながれ

《(社)ウォーターフロント開発協会》

4月～6月 マスター候補者の推薦
地方整備局、港湾管理者、市町村など

7月初 選定委員会による審査

7月20日頃 WF開発協会が認定

国土交通省 港湾局長より表彰

「みなとまちづくりマスター」の表彰式（'08年8月4日） 18

4. 港湾の観光施設（スライド14）

ウォーターフロントの賑わい拠点

神戸はみなととともに発展してきた街であり、ウォーターフロントに多くの賑わい拠点がある。

- 東三宮TENNIS FENIX 8年オープン
- メリケンパークS12年オープン
- 神戸震災復興ビルパーク09年整備
- ハーバーランド04年オープン
- ポートパーク04年オープン
- 五ヶ倉庫レストラント04年オープン
- ほねっこ広場04年オープン
- 中興橋詰客ターミナル010年リニューアルオープン
- ポートアイランド公園019年オープン

20

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド15）

神戸におけるクルーズ振興の取り組み

クルーズ船入港時には、歓迎セレモニー、特産品の試食・販売等が行われている。ボランティアの「客船歓迎サポーター」より、客船の歓迎セレモニー、寄港時のターミナルでの催し、街中でのおもてなし等の企画・実施のサポートが行われており、市民と一体となったクルーズ船誘致や客船を活かした地域活性化が進められている。



クルーズ船歓迎行事には多くの市民が参加



外国語対応が可能な観光案内所は多くの人で賑わう

10月4日 客船フェスタ 開催

10月3日～4日にかけて、外国客船「アムステルダム」が入港し、4日は「ばしふいっくひいなす」も神戸ポートターミナルに入港します。2隻の同時入港を歓迎して、4日に「客船フェスタ2008」が開催されます。



昨年度の客船フェスタ



元町商店街によるお土産販売等

21

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド16）

神戸のみなとまち文化と観光

開港以来、生活に異国文化が取り入れられてきた中で、食や建築物などにも影響を受けてきた。一方で、近代的な夜景も美しく、多くの人を魅了している。



神戸の中華街
左：南京町 右：点心（イメージ）
（写真：神戸公式観光サイト）



六甲山 六甲ガーデンテラス



左：風見鶏の館



右：ラインの館
（写真：神戸公式観光サイト）



神戸の夜景は人気が高い
写真：神戸公式観光サイト

22

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド17）

神戸の産業観光

神戸港内の遊覧船では、美しい山々を背景とした神戸の美しい街並みのほか、造船所の潜水艦や神戸空港の離発着などの産業観光を楽しむことができる。





神戸空港



造船所





写真：神戸シーバスHP、神戸クルーズラインHP、神戸リゾートラインHP

23

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド18）

神戸の防災観光

神戸港震災メモリアルパークは、メリケン波止場の一部を阪神・淡路大震災で被災したままの状態で見学可能。神戸港の被災状況や復興の過程を広く後世に伝える事を目的として整備され、海洋博物館内の震災関連展示とともに、地震の衝撃を伝えている。




写真：神戸市HP

24

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド19）

広域的な連携：京都・奈良との連携

神戸の背後には、京都・奈良など世界的に有名な観光資源があり、神戸の観光振興を図る上で連携が重要。

写真：神戸市HP

写真：京都府観光情報

写真：京都府観光情報

写真：じゃらんネット

25

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド20）

広域的な連携：瀬戸内海沿岸地域との連携

神戸港は、多島美の美しい景観に恵まれた瀬戸内海の東の玄関に位置しており、空港や新幹線からのアクセスも良く、知名度も高いことなどから、神戸港を核とした瀬戸内海クルーズの振興が期待されている。

神戸港発着のテストクルーズ「せとうち・感動体験クルーズ」(H20. 7)

小学生歓迎演奏(瀬戸田港)

瀬戸内海

写真：藤原謙一郎クルーズワールド

26

5. 神戸の魅力＝多様な観光資源（スライド21）

神戸港 ポートアイランド地区 緑地整備

沖合を航行する船舶からの港の景観を創出すると同時に、市民が陸側から海を展望できる親水空間を創出するため、緑地の整備を行っている。(H22年度完成予定)

整備済 (ポ-アイおさい公園)

整備済

整備中・整備予定

神戸国際空港

ポートアイランド公園

ポートアイランド公園からの夜景

写真：ウォーカープラスHP

28

6. 神戸港の取り組み（スライド22）

神戸港須磨地区 みなと振興計画

神戸港須磨地区では、地域の個性を活かした水辺の賑わい空間づくりを行うため、外郭施設及び係留施設の整備、海洋学習施設の整備が行われている。

- 基幹事業・係留施設
- 提案事業・海洋学習施設
- 基幹事業・係留施設の改修
- 基幹事業・外郭施設の改修

29

6. 神戸港の取り組み（スライド23）

